

2025

1.8 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_QUPCdIw6Q1KlebHLcxYwNg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

環境・植物情報の見える化と 局所環境調節で挑む施設園芸農業のスマート化

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに9 産業と技術革新の
基盤をつくろう13 気候変動に
具体的な対策を

Key Words

スマート農業

園芸農業

局所環境調節

農業気象学

植物の生理生態機能

安武 大輔 准教授

九州大学 農学部 生物資源環境学科

2005年に九州大学で博士号（農学）を取得，日本学術振興会特別研究員PDを経たのち，2008年に高知大学の准教授，2015年に九州大学の准教授に就任しました。また，2021年からクロスアポイントメント制度により高知大学IoP共創センターの特任教授も併任しています。農業気象学，生物環境調節学をベースに，植物の環境応答の評価・モデル化や，環境調節・スマート農業に関する研究に取り組んでいます。最近はとくに，施設園芸農業における脱炭素化を目的に，九州大学工学部，エネルギー研究教育機構とのコラボレーションにも取り組んでおり，その活動を基に農林水産省の戦略的スマート農業技術の開発・改良事業に参画しています。

農業をとりまく様々な課題群（増収化，計画安定生産の実現，省エネ・省資源か，技術の共有・継承，省力化，気候変動適応など）への対応として，スマート農業が期待されています。色々な農業の場面でスマート技術が開発されていますが，施設園芸農業（ビニルハウスや植物工場などの農業施設内で行われる植物生産）はスマート化が活発な代表的な農業形態の一つです。

演者は，施設園芸農業における生産環境と植物の情報を可視化することで生産上の問題点を抽出し，それを改善するための効率的な環境調節として，植物域のみを局所的に調節する技術（局所環境調節）の開発に取り組んできました。本セミナーでは，これらの取り組みをわかりやすく紹介します。